

講義要項(シラバス)

科目名	多文化共生			授業方法	講義・演習		
担当教員名	横石 雄紀			必修・選択	選択	単位数	4単位
学科	介護福祉科	学年・時期	1年 通年		回数	30 回	
担当教員の 実務経験	日本語学校で留学生支援や地域連携に携わり、多文化背景をもつ学生の適応支援に取り組んできた。加えて、多文化共生イベントで能管を用いた即興演奏WSを行う。また、海海外音楽祭での演奏活動を通し、国際的な文化交流にも携わってきた。						
<p>授業の目的及びねらい</p> <p>本授業では、教科書に基づく異文化理解の基礎知識に加え、留学生支援や多文化交流の実務経験を事例として紹介し、文化差を体験的に学ぶ機会を設ける。多文化環境で他者を尊重しながら関わる力を育て、介護や地域社会の現場に活かせる多文化共生の姿勢を身につけることを目的とする。</p>							
<p>授業終了時の到達目標</p> <p>① 異文化理解の基本概念を説明できる。 ② 自文化と他文化の違いを客観的に捉えられる。 ③ 多文化共生の一助となるために自身ができることについて考え続けることができる。</p>							
回数	各回のテーマ・内容			授業以外の事前準備学習内容			
1	オリエンテーション・授業概要説明			適宜、指示を出す。			
2	異文化交流の歴史			適宜、指示を出す。			
3	文化の冰山モデル			適宜、指示を出す。			
4	私の常識は誰の非常識？			適宜、指示を出す。			
5	トータルカルチャーとサブカルチャー			適宜、指示を出す。			
6	文化の特徴(文化は学習される/伝承される)			適宜、指示を出す。			
7	文化の規範性・相互関連性			適宜、指示を出す。			
8	個人的側面・普遍的側面			適宜、指示を出す。			
9	介護の異文化ケース①			適宜、指示を出す。			
10	U字型適応モデル			適宜、指示を出す。			
11	W字型適応・らせん型適応			適宜、指示を出す。			
12	シミュレーション(概要)			適宜、指示を出す。			
13	文化の違いに気づく① 行動の違い			適宜、指示を出す。			
14	文化の違いに気づく② 視点/環境の違い			適宜、指示を出す。			
15	前期まとめ・理解度チェック			適宜、指示を出す。			
16	固定観念			適宜、指示を出す。			
17	ファイリング・スティグマ			適宜、指示を出す。			

18	差別の種類と背景	適宜、指示を出す。
19	現代社会における差別の構造	適宜、指示を出す。
20	世界の価値観① 個人主義と集団主義	適宜、指示を出す。
21	世界の価値観② 高文脈文化／低文脈文化	適宜、指示を出す。
22	異文化トレーニング(概要)	適宜、指示を出す。
23	実践—ロールプレイ	適宜、指示を出す。
24	実践—シミュレーション演習	適宜、指示を出す。
25	異文化受容のプロセス	適宜、指示を出す。
26	新しいアイデンティティの形成	適宜、指示を出す。
27	自己理解(ジョハリの窓)	適宜、指示を出す。
28	非言語コミュニケーション	適宜、指示を出す。
29	アサーティブ・コミュニケーション	適宜、指示を出す。
30	まとめ:多文化共生社会を実現するために	適宜、指示を出す。
成績評価の方法		
各回の振り返りシート(授業参加・意欲・記述内容)……70%		
期末レポートまたは成果発表(内容・構成・表現)……30%		
使用テキスト・参考書等		
原沢伊都夫『改訂版 異文化理解入門』(研究社)		
授業に関する特記事項(携帯電話の取り扱いや授業内のルール等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォンの使用は原則禁止とし、調べ学習等の必要時のみ教員が許可する。 ・欠席・遅刻・早退は事前連絡を必須とし、無断欠席は評価に反映する。 ・グループワークや対話活動では他者を尊重し、否定的・差別的発言は禁止する。 ・授業内で扱う個人情報や文化的背景の話題は外部に漏らさないこと。 ・異文化や価値観の違いについて自由に意見を述べられる「安全な場」を維持するため、発言の揶揄・中傷を禁ずる。 ・学習への参加姿勢や協働の態度は評価に含まれる。 		